

ペンシルベニア州立大学大学院  
人間発達家族研究専攻における先進的教育システム

星 野 和 実

I. 目的：本研究は、アメリカ合衆国の大学院ランキング・発達心理学部門で第6位に位置する、ペンシルベニア州立大学大学院（P S U）人間発達・家族研究専攻（Department of Human Development and Family Studies：H D F S）を対象にして、アメリカ合衆国における先進的教育システムを論じることとする。また、その秀逸な学際的教育プログラムおよび、大学院生の発達評価システムについて検討する。

II. 方法：著者は、「大学教育の国際化推進プログラム（海外先進研究実践支援）」（文部科学省）の研究助成を受けて、2006年から2007年にP S Uで客員研究員となり、H D F SとE D T H P（Department of Educational Theory and Policy Studies：教育理論・政策専攻）で授業を観察した。また、専攻長、大学院・学部の各主任教授、社会科学研究所長等に対して、教育・研究システムについてインタビューを行った。本稿では、主に授業参観について焦点をあて、インタビューについては間接的に反映させることとする。

III. 結果と考察：H D F Sは、生涯発達のなかでも特に成人期から超高齢期までの教育と研究を重視する長所を有する。また、H D F Sは国際的、世代的な研究教育システムを大学院生のみならず、外国人研究者を対象としても開発してきた。日本の臨床心理士は、専門的カリキュラムをより学術的に改編してきたが、この生涯発達心理学の学際的教育モデルから学ぶことができる。

キーワード：人間発達家族研究専攻、ペンシルベニア州立大学大学院、生涯発達心理学、臨床心理学